

# 原子力安全向上に向けた更なる取り組み(ロードマップ)

年度	2021	2022	2023	2024～
1. ガバナンスの強化	<b>【2014】</b> 中部電力グループ原子力安全憲章制定			
	<b>原子力安全向上会議</b> ・リスクの分析・評価、対応策の審議（他部門管掌役員も構成員として会議に参加）			
	<b>内部監査機能</b> ・リスクマネジメントの状況を内部監査部門がモニタリングし、結果を原子力安全向上会議に報告			
	<b>アドバイザリーボード</b> ・社外の有識者の知見を安全性向上に向けた取り組みに活用			
	<b>全社リスクマネジメント</b> ・全社リスク管理部署と原子力部門主管部署とのリスクコミュニケーションの強化			
2. リスクマネジメントの強化	<b>リスクマネジメントの推進（RIDM活用範囲の拡大）</b> ・リスクマネジメントの運用と継続的改善 リスクの特定、分析、評価およびリスク対応力の向上			
	・発電所の運営におけるリスクマネジメントの展開 状態監視やリスク情報共有による保全活動の推進 構成管理やリスク情報等を取り入れた工程管理・現場管理			・安全かつ効率的な発電所運営の実践 設備信頼性向上 課題対処の優先順位付けと適切なリソース配分
	・リスクマネジメントの組織への浸透・定着			
	・リスクマネジメントを支える技術基盤の強化			
	・米国水準を目標とした高度化PRAモデルのプラント設計・運用と整合した整備			
	・国内外の知見や研究成果の調査、技術検討、およびそれらを活用したPRAモデルの整備・改善			
	・PRA技術者の継続的育成			
	<b>安全向上に向けた不断の努力</b> ・組織的なパフォーマンス監視と組織のパフォーマンス向上			・安全かつ効率的な発電所運営の実践 組織的なパフォーマンス監視の高度化 更なるパフォーマンス向上
	・目指す姿の浸透と個人のパフォーマンス向上			
	・第三者レビューに基づく改善（WANO-PR、JANSI-PRおよびHaABS）			
	・JANSI、ATENA等の外部知見を活用した技術的基盤の強化			
	・新知見・新技術の収集等による継続的な安全性向上の検討と『安全性向上評価』の実施			
	<b>原子力災害への備え</b> 訓練等の実施と改善	・より一層のリスク低減に向けた防災対策の強化		
	<b>安全文化醸成活動</b> 年度計画に基づき実施	・リスクに対する意識調査を踏まえた計画の策定および実施によるリスク認識の向上		
	3. リスクコミュニケーションの強化	<b>社外リスクコミュニケーション</b> ・「リスクマネジメントの強化」に関するコミュニケーションの実施		
・リスクの観点を踏まえたコミュニケーションの充実 対話ツールの整備、対話能力の向上				
・地域をはじめ社会の皆さまとの対話の場の拡充				
<b>自治体とのコミュニケーション</b> ・地域防災計画に係る訓練への参加等を通じた自治体との連携強化				
<b>社内リスクコミュニケーション</b> ・原子力安全向上会議における議論を通じたリスクコミュニケーションの充実 ・グループ会社全体の原子力に関する理解促進				

『PRA』とは、確率論的リスク評価の略称であり、事故に至るリスクを定量的に示す手法です。機器の故障に起因する事故を評価対象とした内的事象PRAや地震、津波の影響による機器の故障を加味した地震PRA、津波PRA等があります。

『RIDM』とは、PRAから得られる知見をその他の工学的知見とともに考慮して意思決定する手法のことです。

『安全性向上評価』とは、原子力発電所の安全性向上を図るため、その安全性について自ら評価をすることです。また、その結果等については原子力規制委員会に届け出ることとされています。

『CAP』とは、改善措置活動の略称であり、問題の安全上の重要性の評価、対応の優先順位付け、解決まで管理するプロセスを含む取り組みのことです。